令和４年度　多摩市立多摩第三小学校　　授業改善推進プラン　　教科名　国語科

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	**イ　思考力、判断力、表現力等**
・「言葉の働き」、「語彙」、「文や文章」に関する内容を重点とし、理解を深める。	・相手の考えを理解し、自分の思いや考えを適切に表現する。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	ア ・ひらがなの表記は習得しているが、拗音・促音などの表記の習得が不十分である。	・表記の一覧を示し、自分で調べて書くことができるようにする。また、各単元で言葉見付けや言葉遊びを取り入れて、拗音や促音の表記が身に付くようにする。	・９月～２月	・言葉遊びなど、児童が楽しみながら文字に親しむ活動を取り入れたことで、児童自ら「調べる・書く・見直す」ことができるようになり、正しい表記の習得につながった。
	イ ・自分の考えをもつことが難しい児童や自分の意見をもっていても言えない児童がいる。また、友達の意見を聞けない児童がいる。	・自分の考えをまとめる時間をしっかりと確保し、簡単な問いなどについて考えを表明する場面を多く設定する。小グループで発表する機会を増やすなど、自信をもって発言できるようにする。 ・発表する児童だけではなく、聞く側には聞く視点を明確にもつことができるようにする。また、常に意識して正しい話の聞き方を身に付けられるように指導を積み重ねる。話し合うことの有用性が伝わるように、友達の意見を共有していくよさを指導計画に意図的に組み入れる。 ・話型を示す。	・９月～２月	・簡単な問いをはじめ、児童が発言する機会を意図的に増やしたことで多くの児童が抵抗なく自分の考えを伝えることができるようになった。 ・話型を示すことや話し方のモデルを示すことは児童が自信をもって発言することへとつながった。 ・聞く視点を明示することは正しい話の聞き方の習得へつながっているが、定着について個人差が大きい。
第２学年	ア ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解できていない児童がいる。 ・身近なことや物の名前を習得していない。	・「書く」学習において、表記の一覧を見ながら書けるようにしたり、正しく表記できている文章を提示したりする。 ・言葉見付けや身近なことや物の語句を活用する学習を通して、語彙の量を増やす。	・９月～２月	・書写の時間を中心に正しい表記や語句の量を増やすことができた。定着具合に個人差が出ている。
	イ ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることが難しい。	・友達の意見を共有し、新たな意見を発見できる楽しさを実感する活動を設定し、自分の思いや考えを分かりやすく伝えようとする	・９月～２月	・交流活動を行い、気軽に伝えられる場を設け、思いや考えを伝えること

		意欲をもたせる。 ・ペア、グループ、学級全体など、様々な形態で互いに交流し、伝える機会を増やすと共に、自分の思いや考えを修正できるようにする。 ・話型を示す。		ができた。話型があっても内容の固まっていない児童も多く、何を伝えるかを明確にさせる必要があった。
第３学年	ア ・読み取った事柄を文で表したり、自分の考えを書いたりすることが難しい。	・言いたいことや伝えたいことを文で表現できるように、５ｗ１ｈを基本として文章をまとめる練習をさせていく。 ・日頃から辞書を活用させ、語彙量を増やす。	・９月～２月	・個人差はあるものの、読み取ったことや、自分の考えを文で表すことについては改善が見られた。
	イ ・自分の意見を相手に分かりやすく伝えることに課題がある。また、意見を聞いたり、自分の意見と比べたり、さらに聞きたいことを考えることが難しい。	・自分の考えをはっきりとさせた上で、それを相手に分かりやすく伝えられるよう、５ｗ１ｈを基本として自分の思いや考えを伝える練習をさせていく。 ・話し合いの際は、聞いた意見に対し、自分が感じたことを伝えるような場を継続して設ける指導を行っていく。 ・話型を示す。	・９月～２月	・自分の意見を伝える場面は増えた。しかし、友達の意見を聞いて、その上でさらに自分の意見を伝えていくことは十分とは言えない。さらに日常的に取り組んでいくべきであった。
第４学年	ア ・段落構成を意識して文章を書くことに課題が見られる。また、接続語や指示語について、理解はしているが活用することが難しい。	・文章を読み取る際に、始め、中、終わりに着目し、接続語や修飾語等、どのような言葉が使われているのか、その効果を理解できるようにする。 ・「書く」活動の際に、段落構成だけでなく、接続語、修飾語等の役割を繰り返し確認する。	・９月～２月	・要約の学習では，段落ごとの要点を見つけ，思考ツールに整理し，文章を削ったり，言い換えたりする活動を通して，書くことができるようになってきた。
	イ ・話し合い活動では、言葉を選び分かりやすく伝えることや、相手の考えを受けて深め合うことが難しい。	・自分の考えを伝える前に、内容を整理することや、どのような言葉を使うとより分かりやすく伝わるかを考えさせる。 ・話し合いの視点を示す。 ・話型を示す。	・９月～２月	・相手に伝わるように，主語と述語が正対させることや，短く要点を伝えることを指導してきたが，まだ十分とは言えない。
第５学年	ア ・漢字や接続語、指示語、段落の分け方について、理解はしているが、文章を書く時の活用が難しい。	・報告文や紹介文、毎週の日記をはじめ、文章を書く際には漢字や接続語、指示語、段落分けのどれかに特化して意識させ、重点的に指導し、一つ一つ活用できるようにしていく。 ・書き出しや文末の書き方を示すことで、相手に伝わる文章を書けるようにする。	・９月～２月	・「書く」活動の際には、その都度事前指導をすることで、意識して書けるようになってきた。
	イ ・相手の考えを生かして自分の意見を広げたり深めたりすることが難しい。 ・相手の考えとの違いを意識して自分の考えを伝えることが難しい。	・自分の考えと、筆者の考えや友達の考えとを比べて考えられるよう、まとめ方を工夫して視覚的に比べ易くすることで考えを深められるようにする。 ・自分の考えの根拠を明確にして話し合うことができるように習慣付けていく。	・９月～２月	・自分で決めて分かりやすくノートをは止められる児童が増えてきた。しっかりとノートをまとめたことで、時事文の意見を明確にもって話し合いを行うことができた。

第６学年	ア ・主語と述語、修飾・被修飾の関係を捉えることが難しい。 ・漢字の読み書きなど、全国学力調査の結果が都の平均正答率より低い項目があり、漢字の習得が難しい。	・「読む」「書く」活動を行う際に、修飾語、被修飾語等の関係を確認する。 ・漢字小テストは、満点になるまで取り組ませ、毎日の日記で習った漢字を使うように指導する。	・９月～２月	・「書く」活動で、主語と述語の関係は一致するように意識するようになった。 ・漢字小テスト・50 問テストでは、９０％以上の得点になるまで取り組み、既習の漢字を使って文章を書く意識はもっているが、活用する力には個人差がある。
	イ ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、どのように文章を整えたらより的確に伝わるのかなど、全国学力調査の結果が都の平均正答率より低い項目があり、適切に表現することが難しい。	・辞書を用いて言葉を調べながら文章を書かせる。 ・意見の交流をしたり、文章を見合ったりする活動を取り入れ、友達の表現の良さに気付かせ、活用できるように指導していく。	・９月～２月	・一文を短めに書き、接続詞で文章をつないでいく意識がもてるようになった。説明文の構成を学び、はじめ・中・終わりで自分の考えを表すことができるようになってきた。記述することに苦手さを感じている児童には、意見を聞きながら個別指導が必要だった。

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
１年　自分の思いや考えをもち、互いの思いや考えを伝え合う活動 →タブレット端末の動画撮影機能やロイロノート等を活用し、思ったことや考えたことを発表する。 ２年　自分の思いや考えをもち、互いの思いや考えを伝え合う活動 →タブレット端末の動画撮影機能やロイロノート等を活用し、思ったことや考えたことを互いに意見交換する。 ３年　伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめる活動 →タブレット端末の動画撮影機能やロイロノート等を活用し、思ったことや考えたことを互いに意見交換して、自分の作品や課題に生かす。 ４年　伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめる活動 →タブレット端末を用いて課題に関わる内容を主体的に調べる。課題に対するまとめができたら、タブレット端末を使って各自のまとめを共有し、交流する。また、グループで協働して調べたりまとめたりする際にタブレット端末を活用して、共有しやすくする。 ５年　伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる活動 →取材した材料や具体的な事実、自分の意見等を伝えるために、タブレット端末を活用して発表の様子を繰り返し視聴することで、よりよい内容に修正したり伝え方を身に付けたりする。 ６年　伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる活動 →自分の伝えたいことを聞いてもらえるようにするため、タブレット端末を活用して文字だけでなく写真、音声、動画等を取り入れたプレゼンテーション資料を制作し、できるだけ分かりやすくなるよう工夫させる。	全学年 ・前時までに学習した内容を振り返ったり、これから学習する内容の理解につながるような掲示をしたりして、本時における課題を明確にもたせる。 ・一時間一時間の課題について、自分の考えをまとめ、次の時間の課題につながるようにしていく。 ・適切な語彙を用いて、分かりやすい文や文章にする学習を継続して行うことで、言葉がもつよさに気付けるようにする。